HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	学生による講義評価の試み : 4年間の試行から
Author(s)	大宮司, 信
Citation	北海道大学医療技術短期大学部紀要, 8, 57-64
Issue Date	1995-12
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/37586
Type	bulletin (article)
Note	短報
File Information	8_57-64.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

短　　報

学生による講義評価の試み
－ 4年間の試行から －

大宮司　信

A Trial Approach to the Evaluation on the Lectures by Students
－ From the Survey of the Last 4 Years －

Makoto Daiguji

Abstract

We have examined the result of the survey in which students evaluate the lectures of the author mainly on psychiatry over the last 4 years. The students were those majoring in Occupational therapy, Physical Therapy and Nursing, College of Medical Technology, Hokkaido University and the students of the Depertment of Nurture of a Women's Junior College. The purpose of this survey was designed not for the evaluating quality of teacher, but for helping instructors change their lectures according to the evaluation. The result shows that over about 80% of students have been satisfied with the lectures over the last 4 years. In such a survey as this however, because of an increasing number of second and third-year students showing strict evaluation for higher recovery rate, students' true evaluation proved to be unobtainable without elevating recovery rate. Analysing the result of the survey, We found that the instructors should take the result as the significant information in improving the quality of lectures.

要　　旨

精神医学を中心とする講義に対する学生の評価について過去4年間にわたって検討した。対象としたのは北大医療短大作業療法学科及び理学療法学科，看護学科，さらに某女子短大保育科の学生である。本研究で用いた調査用紙は教官に対する評価のためのものではなく，学生の評価によって講義を変えていくためのものである。過去4年間ではほぼ80%以上の学生の満足を得られたという結果であった。しかし2，3年生では回収率が高くなるほど厳しい評価をする者が多くなる傾向があるため，このような調査では回収率を上げなければ真の学生の評価が得られない可能性があることがわかった。教育方法を教官自身が検討していく一手段として学

北海道大学医療技術短期大学部作業療法科
Department of Occupational Therapy, College of Medical Technology, Hokkaido University.

生による講義評価の意義についてふれた。

1　はじめに

大学教育では教官が学生に講義するだけではなく，セミナーのように学問的な相互交流が行われる。また講義の評価についても，担当教官の自己評価，教官同志の相互評価だけではなく，受講する側の学生による評価も最近行われるようになってきている。

講義に対する評価はその内容，すなわち何を講義するかという点と形式，すなわちどのように講義するかという点の二つの側面に分けて行われるべきと考えられる。筆者は出席カードに各回の講義の感想を聞いたり，学年末に全体としての感想を聞いたりという試みをしているが，同時に無記名マークシート方式をとった講義の評価も受けてきた。

本短報では過去4年間の結果をまとめ，特に学年別の評価の変化や，主として講義を行っている理学療法・作業療法学科の場合と，他学科および他大学における同内容の講義における評価との比較を中心に報告する。

精神医学講義についてのおたずね

以下のおたずねについてマークシート方式で、あてはまるもの1つだけを黒くぬりつぶして下さい。必ず無記名で提出して下さい。次年度以降の講義の参考にさせていただきたいと存じますので、何卒よろしくおねがいします。

	おたずね	おこたえ	
A.	講義の時の口調、声はいかがだったでしょうか。	1．ききやすかった。	1
		2．普通。こんなものでしょう。	2
		3．声が小さくてききにくい。	3
		4．早口でききにくい。	4
		5．その他の理由でききにくい。	5
B.	板書（黒板にかいたもの）はいかがだったでしょうか。	1．よかった。	1
		2．普通。こんなものでしょう。	2
		3．字がきたない、もっとていねいに。	3
		4．まとまりがわるい。	4
		5．順序のつけ方（1, 2, 3, A, B, Cなど）がわるい。	5
C.	講義、板書以外の視聴覚教材の使用についてはいかがでしょうか。	1．今のままでよく、とくに必要はない	1
		2．スライド、ビデオ、プリントなどをもっと多用してほしい。	2
D.	講義の内容と指定教科書の内容がはなれていたのではないかと思うのですが，それについて。	1．それはそれでよい。	1
		2．もっと講義に密着した教科書を指定してほしい。	2
		3．特に教科書はいらないのではないか	3
E.	講義の内容はどうでしたでしょうか。	1．興味深かった。	1
		2．むずかしかった。	2
		3．たいくつであった。	3
		4．必要性がよく理解できなかった。	4
F.	全体として講義はどうでしたでしょうか。	1．よかった。	1
		2．ふつう。まあこんなものでしょう。	2
		3．種々改善の余地あり。	3
		4．ひどかった。	4

図1　評価用紙

2　対象と方法

図1に示す評価用紙を用いて講義評価を，本学理学療法・作業療法学科（以下PT・OT科）の1年生（対象講義名：精神医学Ⅰ，以下同じ），2年生（精神医学Ⅱ），3年生（精神医学Ⅲ，作業療法学科のみ）及び看護学科（以下N科）2年生（疾病論Ⅳ（精神医学）），某女子短大保育科（以下保育科）2年生（精神保健学）に依頼した（なお精神医学Ⅲにおいては設問1，2のかわりに他の項目が入っているのでこの部分については本検討からは除外されている）。

評価用紙は各講義の最終回の前の回の講義の時に配布し，最終講義の時に回収するのを原則とした。記入はすべて無記名で行われ，実数，百分率を検討した。また比較するために講義の出席率についても検討した。

3　結　　果

表1はPT・OT学科で行われた3つの講義，すなわち精神医学Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ（OT学科のみ）の結果である。

各数字はそれぞれの設問に対する回答1，すなわち当該設問に対する学生の満足度を示すと考えられる部分に印を付けたものの割合を示している。全体としてみてみると，視聴覚教材の使用については特に必要ないとしたものが65%の他は，ほぼ80%以上の回答を得ている。また全体としての回収率は66%となっている。

各科目は精神医学Ⅰ，Ⅱがそれぞれ1年後期，

表1　講義に対する評価(1)

科目		精神医学Ⅰ					精神医学Ⅱ			精神医学Ⅲ				平均
学科 学年		(PT+OT, 1年)					(PT+OT, 2年)			(OT, 2年)				
年度														
設問	回答	6	5	4	3	平均	5	3	平均	6	5	4	平均	
A. 講義の時の口調，声はいかがだったでしょうか。	1. ききやすかった	92	91	90	80	88	91	89	90					89
B. 板書(黒板に書いたもの)はいかがだったでしょうか	1. よかった	95	83	90	83	88	77	85	82					86
C. 講義，板書以外の視聴覚教材の使用についてはいかがでしょうか	1. 今のままでよく，特に必要はない	50	61	65	66	61	59	67	63	58	100	62	73	65
D. 講義の内容と指定教科書の内容が離れていたのではないかと思うのですが，それについて。	1. それはそれでよい	92	70	75	66	76	72	69	71	95	88	100	94	81
E. 講義の内容はどうでしたでしょうか	1. 興味深かった	98	91	100	91	95	86	65	76	74	100	92	89	89
F. 全体として講義はどうでしたでしょうか。	1. よかった	100	91	100	83	94	82	74	78	58	88	85	77	85
回収率		95	51	49	81	69	52	68	60	83	40	72	65	66
出席率		89	91	70	87	84	81	92	97	95	90	92	92	87

当短大理学・作業療法学科学生による過去4年間の評価（最も高い評価の百分率のみを示す）及び評価用紙の回収率，講義への出席率。

2年前期，精神医学Ⅲは2年後期に行われている。Ⅰ，ⅡがPT・OT両学科共通で開講されるのに対して，精神医学ⅢはOT学科独自であり，講義内容の違いがあるので一概に比べることはできないが，図2に各設問についての回答1の割合の年次別の変化を示した（実数については表1参照）。C（視聴覚教材の使用）については，年次毎に「特に必要と考えない」という回答率が高まっている。またD（教科書について）も精神医学Ⅰ，Ⅱについてはほぼ同様であるが，Ⅲについては教科書に密着した講義でなくても良いという率が高まっている。一方E（講義の内容について）では，1年次が最も高く，2年次で低下し，3年次で再び高くなっている。これはそれぞれの講義内容に対する学生の興味の差が現れていると考えられる。

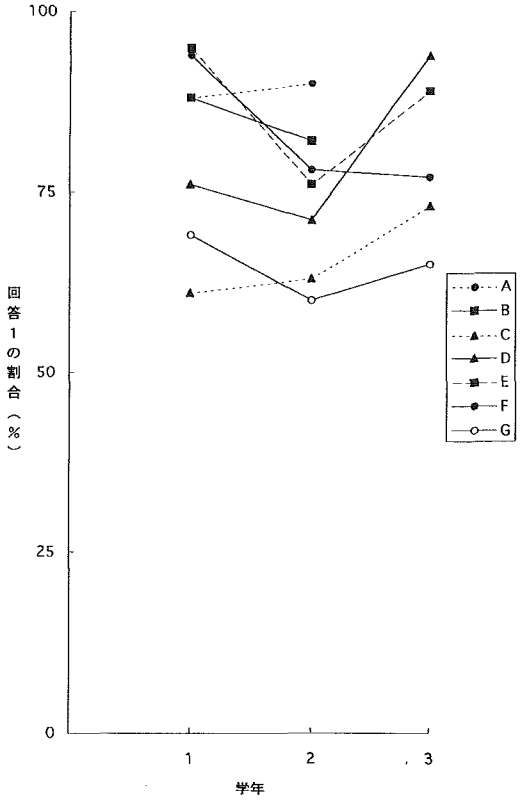

図2　学年による項目別の評価の推移
A～F：各評価項目を示す
G：評価用紙の回収率

注意しなければならないのはF（全体としての講義に対する評価）で1年次にくらべて2年，3年ではそれぞれ16，17%の低下を示している。これは高学年になるほど講義に対して厳しく評価する傾向を示すと考えられる。図3ではこのF（講義全体としての評価）に対する回答1の割合と回収率の関係を見た。統計的な有意差は見られないが，2，3年（白抜きの部分）では回収率が上がるほどFで1をつける割合が減る傾向がみとめられた。

表2は看護学科（N科）における過去3年間の各設問に対する結果と平均を示す。また表3は某女子短大保育科（保育科）における精神保健学の講義の結果を示す。ここではDの項目は設定されていないため欠いている。

表4はPT，OT科及びN科，保育科について，回答1の割合を比較したものである。講義の対象年次，講義内容さらに時間数に違いがあるため一概に比べることはできないが，保育科に関してはB（板書に対する評価）がPT，OT，N科という当短大の学科より低いのが目立つ。E（講義の内容についての興味深さ）についてはN科が最も高い。一方F（講義全体に対する評価）はPT・OT学科が最も厳しい評価を示している。また回収率ではN科と保育科かがほぼ同じであるが，PT・OT科はそれに比べると低くなっている。

4　考　　察

本短報で報告した講義評価以前に，筆者は毎回の講義の出席カードに講義の感想を求めたり，講義全体が終わった後に全体としての講義の感想を求めてきた。それらにふまえ，しかも学生が答えやすいようにB5版用紙1枚にまとめられる形で項目を選んで作成したものが今回使用した評価用紙（図1）である。従ってあくまでこの評価は，筆者自身が自己の講義をさらにより良いものとするためのものである。

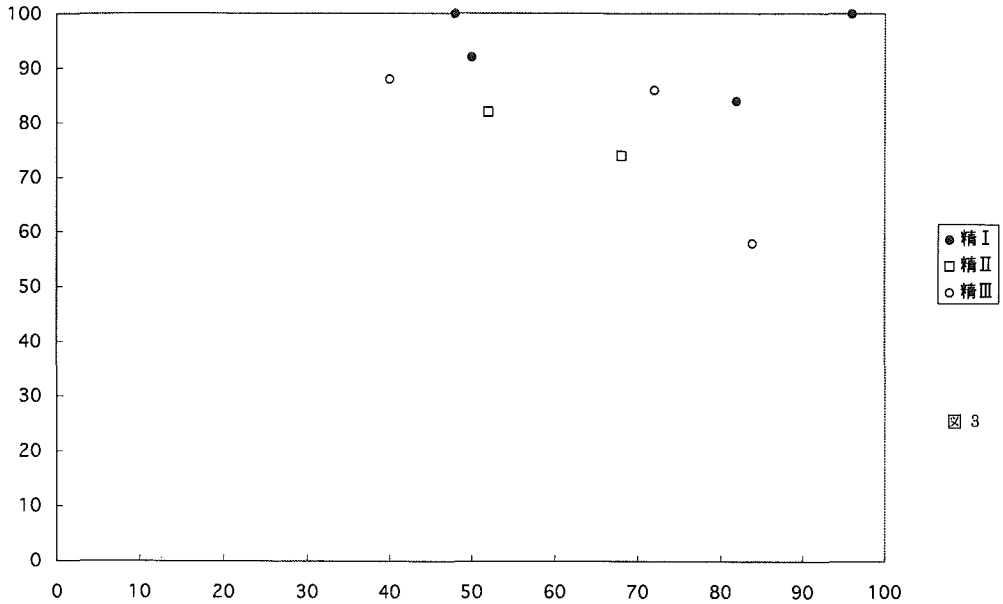

図 3

図3　回収率と講義全体への評価の関係

評価用紙の回収率（横軸）と講義全体の評価（F）で1を評価した率(縦軸)の関係を，ともに百分率にて示す。

表2　講義に対する評価(2)

科目 / 学科 / 学年 / 年度		疾病論Ⅳ (N科，2年)			
設問	回答	6	5	4	平均
A．講義の時の口調，声はいかがだったでしょうか。	1．ききやすかった	91	98	84	91
B．板書（黒板に書いたもの）はいかがだったでしょうか	1．よかった	87	94	90	90
C．講義，板書以外の視聴覚教材の使用についてはいかがでしょうか	1．今のままでよく，特に必要はない	62	58	77	66
D．講義の内容と指定教科書の内容が離れていたのではないかと思うのですが，それについて	1．それはそれでよい	59	55	68	61
E．講義の内容はどうでしたでしょうか	1．興味深かった	95	98	98	97
F．全体として講義はどうでしたでしょうか。	1．よかった	95	98	98	97
回収率		98	79	73	83
出席率		97	92	97	95

当短大看護学科学生による過去3年間の評価（最も高い評価の百分率のみを示す）及び評価用紙の回収率，講義への出席率。

表3　講義に対する評価(3)

設問	回答	精神保健学（保育科，2年） 6	5	4	3	平均
A．講義の時の口調，声はいかがだったでしょうか。	1．ききやすかった	94	90	96	94	94
B．板書（黒板に書いたもの）はいかがだったでしょうか	1．よかった	75	65	78	80	75
C．講義，板書以外の視聴覚教材の使用についてはいかがでしょうか	1．今のままでよく，特に必要はない	65	62	66	62	64
D．講義の内容と指定教科書の内容が離れていたのではないかと思うのですが，それについて	1．それはそれでよい					
E．講義の内容はどうでしたでしょうか	1．興味深かった	81	98	91	94	91
F．全体として講義はどうでしたでしょうか。	1．よかった	96	90	98	96	95
回収率		84	87	85	82	85
出席率		87	94	87	79	87

某女子短大保育科学生による過去4年間の評価（最も高い評価の百分率のみを示す）及び評価用紙の回収率，講義への出席率。

表4　講義に対する評価(4)

設問	回答	PT＋OT	N科	保育科
A．講義の時の口調，声はいかがだったでしょうか。	1．ききやすかった	89	91	94
B．板書（黒板に書いたもの）はいかがだったでしょうか	1．よかった	86	90	75
C．講義，板書以外の視聴覚教材の使用についてはいかがでしょうか	1．今のままでよく，特に必要はない	65	66	64
D．講義の内容と指定教科書の内容が離れていたのではないかと思うのですが，それについて	1．それはそれでよい	81	61	
E．講義の内容はどうでしたでしょうか	1．興味深かった	89	97	91
F．全体として講義はどうでしたでしょうか。	1．よかった	85	97	95
回収率		66	83	85
出席率		87	95	87

講義の評価に関しては本短報のような考え方と，講義の形式や内容を点数化して，いわば教官の点数づけをするための評価の2つに分けることが出来るように思われる。後者の場合には学生の評価に限ってみても様々な要因があるので，評価用紙は注意深く作成し，また結果の分析にも様々な配慮が必要と考える。

また講義を評価する場合には，その内容と形式の二つに分けて評価する必要があると筆者は考える。内容については既に筆者はOT学科に

関しては卒業生にアンケート調査をするという形で評価を受けている[1]。

さて大学が教育機関であることはもちろんのことであるが，ここ数年来，特に教育内容や教育形式に対する関心が高まっている。医学教育の中にもこうした高まりはみられ，その一部として自己点検や評価についても様々な取り組みがなされている[2]。特に学生が教育の評価や内容に携わるといった点で，例えば臨床実習における指導に学生の評価を導入した佐藤らの研究がある[3]。また華表らは自らの公衆衛生学の講義に対する学生の評価について詳細で縦断的な検討を行っている[4)5)6]。

しかしリハビリテーション教育関係においてはこうした検討はほとんどなく，本短報の執筆のために過去数年間の国公立大学医療短大における紀要を検討したが，学生による講義評価に関する検討は見いだすことは出来なかった。さてわが北大では，平成6年度の年次報告書の一環として，学生による教育指導の評価がまとめられている[7]。これはもちろん本短報の意図とは違い，どちらかといえばむしろ教官に対する点数づけに重点が置かれていると考えられる。本短大においても平成6年度の年次報告の中で，学生による教育指導の評価があげられているが，その詳細は今後の課題とされているようである。

今回当短大作業療法学科，理学療法学科と看護学科，ならびに某女子短大保健学科との比較を試みたが，特に大きな差違はなかったように思われる。ただし講義全体に対する評価は，PT・OT学科では他に比べて低く，また評価用紙の回収率も低かったことは，講義をしている内に次第に慣れて飽きがきてしまい，新鮮さが失われていくためとも考えられ，筆者としては学年進行に伴って工夫が必要と思われた。

今回筆者が行った過去4年間における調査では，主としてPT・OT科についてみると，次のようなことが考えられると思う。

1）学科内容に対する興味について

これについては同じPT・OT科においても講義の内容によって学生の興味はずいぶん異なってくる（図2のE)。すなわち症状論を中心とした精神医学Ⅰ，疾病論を述べる精神医学Ⅱ，さらにその応用領域の精神医学Ⅲということで，それぞれに学生の興味は異なるが，興味が落ちる分野の講義には工夫が必要になってこよう。そのような工夫をどの科目で行ったらよいかを見る上でこのような評価が役立つと思われる。

2）学年次による評価の変遷

全体としての講義に対する評価（本検討ではF）は1年目にくらべて2，3年次で低下している。これは大学の講義に慣れ，評価が厳しくなることが予想されるが，その他にも特に当科では他の講義との内容の重複などの問題も考えねばならない。2年次以降では一層の工夫が必要である。学年を経るごとに講義に対する評価がどう変わっていくかを見るためには，同一期の学生を対象に縦断的に検討していく必要があり，これからの課題としていきたい。

3）回収率について

評価表の回収率は全体としては2年生で低く，1年で高く，3年ではその中間であり，必ずしも学年によって次第に低下するわけではない。しかしPT・OT科の2年・3年では回収率と講義全体に対する評価が負の相関を示す傾向になっており（図3），回収率が良いほど教官に対して厳しい評価をするような傾向がある。今回の報告は限られた年限の少数のまとめのため，厳密な統計的結果ではない。従って結論的なことを述べることは出来ず，今後も更に検討する中で見ていくことにしたいが，このような調査をする場合には回収率に注意し，不十分な場合には例え良い評価を得てもそれに満足してはならぬとはいえよう。

5　ま　と　め

過去4年間に筆者が行った精神医学を中心とした講義に対する学生の評価について若干の検討を行った。学生の評価のみが講義の評価になることではもちろんない。またあまりにそれに依存しすぎてしまうと講義に対する教官の自主性が失われてしまうことも懸念される。従って学生の評価は講義に対する評価の一部と考えるべきであろうが，受ける側の学生の意見はそれなりに重要視していく必要があろう。

このような評価を教官自身の教育面での適性ないし技能の判定の一助とする考え方があるといわれる。いわゆる教師の点数評価であるが，そのような試みでは，点数づけの根拠となる評価用紙や設問の妥当性が当然求められねばならない。ここであげた評価はそうしたものとは異なり，教官が自分の講義をさらにレベルアップするために，学生の意見・評価を求めるのが主旨である。特に今回の調査では結果とともに，学年による変化や回収率の重要性についても若干の考察を加えて報告した。

謝　　辞

本学作業療法学科上野武治教授，末永義圓教授には本論文の草稿を読んでいただき，貴重なご示唆をいただいた。記して感謝申し上げたい。

文　　献

1) 大宮司　信，真木　誠，丸谷隆明：作業療法学科学生に対する精神医学教育についてのアンケート調査．北大医療短大紀要，1：107-121，1988
2) 田中　勧，西園昌久，飯島宗一，他：（特集）医学教育における自己点検・評価（正，続）．医学教育，24：408-460，1993；24：1-34，1994
3) 佐藤英俊，原野　清，十時忠秀：学生参加の評価法の導入－佐賀医科大学麻酔科での試み－．医学教育，21：100-103，1990
4) 華表宏有，土井　徹，松田晋哉，他：学生による授業評価とその活用．医学教育，18：251-258，1987
5) 華表宏有：学生による講義評価の試み（1990年度）．医学教育，23：103-109，1992
6) 華表宏有：学生による講義評価のための質問項目の検討（1990年度）－多変量解析による試み－．医学教育，23：371-378，1992
7) 北海道大学点検評価委員会：学生による教育指導の評価－全教官による学生アンケート（平成6年度北海道大学年次報告書）．北海道大学，1995
8) 北海道大学医療技術短期大学部点検評価委員会：明日の医療技術を目指して－北海道大学医療技術短期大学部の現状と課題－（平成6年度北海道大学医療技術短期大学部年次報告）．北海道大学医療技術短期大学部，1995